

第 2 回淡路島観光戦略会議(10/6)における修正意見への対応

修正意見①

戦略を策定してからの取り組み等が記載されているが、細かなところはよいとして、大きな流れみたいなものは書けないか。

戦略の策定以降、淡路島全体の観光について、行政が積極的に関わりを持つようになったことなど。策定以降、いろいろな動きが出て、淡路島観光会議も設置されている。

【対応】(資料 3 P 4)

戦略素案・本編(資料 3)「第 1 章 現行戦略の進捗状況 1 現行戦略の概要」の「(4) 現行戦略に基づき淡路島が一体となった観光施策の展開」に以下の記述を加えた。

- ① 淡路島観光協会の組織体制の強化(平成 31 年 4 月)
 - ◇ 観光協会に観光戦略室を設置、県及び 3 市から観光協会に職員を派遣
 - ◇ 観光協会に観光の専門人材として、CMO を配置
- ② 淡路島観光会議の設置(令和元年 8 月)
 - ◇ 大阪・関西万博等を見据え、淡路島の観光振興策の提言等を行う組織の設置
- ③ 淡路島観光協会が観光地域づくり法人(DMO)に認定(令和 2 年 10 月)
 - ◇ 観光戦略室を中心とした観光施策の効果的な推進
- ④ 淡路島観光戦略会議の設置(令和 4 年 6 月)
 - ◇ 淡路島の総合的な観光振興方策を効率的・効果的に行うため、淡路県民局・3 市・観光協会の代表者で構成する組織を設置

修正意見②

現行戦略の取組・問題点・課題の「③受入体制の強化」の「1 次、2 次等の公共交通機関の改善」の問題点のうち

- ◇ 高速バスのオープンドア化実施本数の不足、島内周遊が不十分
- ◇ 高速バスと島内交通の接続情報提供が不十分

は、いずれも島内交通の問題を述べているので、島外と島内の問題に分けて書いたらどうか。

【対応】(資料 3 P 9)

戦略素案・本編(資料 3)「第 1 章 現行戦略の進捗状況 3 現行戦略に基づいた取組、問題点、課題」の「(3) 受入体制の強化」のなかで、次のとおり修正を反映した。

- ◇ 島内での高速バスの乗降双方が可能な運航便は少なく、高速バスのみでは島内周遊には不十分
- ◇ 高速バスと島内交通の接続情報の提供が不十分で、島外からの公共交通機関による利用促進が図られていない

修正意見③

「取組の方向性」のうち、都市部の方の異日常の求めに応じられることを目指すという項目が必要ではないか。

【対応】（資料3 P16）

戦略素案・本編（資料3）「第2章 淡路島の観光を取り巻く環境の変化と今後の取組の方向性 2 今後の取組の方向性」のなかで、次のとおり修正を反映した（〈 〉部分を追記）。

- ◇ 〈他の地域では味わえない〉淡路島の魅力を引き出し、旅行コンテンツや旅行者の嗜好の変化に適応したコンテンツの開発

修正意見④

観光地には、清潔さが求められる。お客様を迎えるのに、雑草の生え放題は、いただけない。インター付近はゴミが多い。全島の一斉清掃などを行っているが、集落間の幹線道路沿いやインター付近のゴミは目立つため、きれいにしてほしい。

【対応】（資料3 P19）

戦略素案・本編（資料3）「第3章 本戦略のめざすところ 3 推進戦略」の「(3) 推進戦略3（アメニティ戦略）」のなかで、次のとおり修正を反映した。

- ◇ 旅行者目線を取り入れるとともに、観光客を気持ちよく迎える景観づくり・景観の再構築

修正意見⑤

- ・ 南あわじ市からは、グリーンデスティネーションズ基準をクリアし、国際認証を得るなど、国際基準に準拠したJSTS-Dのガイドラインに沿った取り組みの推進と検証を行うことを提案したい。
- ・ 「SDGs」の考え方を戦略のベースに置いているが、観光振興の足を引っ張らないか。観光は、楽しむものだと思うが、貧困や飢餓対策、福祉など幅広い概念が含まれており、あれもこれも守らなければならないとなると、足かせが増えるだけではないか。認証取得にコストや労力をかけるのは、どうかとは思いますが、環境保全に配慮した理念に沿った観光地づくりは大事だとは思う。
- ・ 「SDGs」の射程範囲が広いため、「SDGs」という文言について、少し何か書き足すなど、工夫が必要かもしれない。
この度の提案については、理念としては皆さん賛成のようだが、具体的なところについては、策定会議で検討してもらった上で記述を検討する。

【対応】（資料3 P19）

- ・ 戦略素案・本編（資料3）の「推進体制と検証体制の確立」のなかに、次の文言を追記する。
 - ◇ 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-Dの考え方や基準を取り入れつつ取組の推進を図る。
- ・ 国際基準に準拠したJSTS-Dのガイドラインに沿った取り組みの推進と検証の方法について、第3回策定会議で検討（資料4）。

〔事務局の考え方〕

- 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の考え方や基準を意識しながら、アクションプランを推進していく。
- 認証を受けることが目的ではなく、認証後の活用が重要である。申請については、先行する他地域の状況を参考にしながら、認証後の活用も見据えたうえで、検討する。